

# 令和6年度第1回総合教育会議議事録

(要 旨)

開催日 令和7年3月25日(火) 14:00~15:45

開催場所 名寄市民文化センター 多目的ホール

講師 社会福祉士 近藤 順子 (名寄市SSW)  
社会福祉士 及川 由紀  
(認定NPO法人さいたまユースサポートネット)

出席者 市長 加藤 剛士  
教育長 岸 小夜子  
職務代理 高橋 雅樹  
委員 松田 潤子  
委員 中枝 範子 (欠席)  
委員 梅野 新

事務局職員 総合政策部長 石橋 毅  
健康福祉部長 馬場 義人  
こども・高齢者支援室長 田畑 次郎  
社会福祉課長 福井 佳子  
社会福祉課総務係長 高嶋 由緒  
こども未来課長 瀬野 友寛  
教育部長 伊藤 慈生  
学校教育課長 土井 涉  
学校教育課主幹 菊池 剛  
参事(指導主事) 松原 光利  
参事付主査 大沼 房子  
生涯学習課長 堺 卓也  
参事(風連公民館長) 新田 博之  
児童センター館長 小笠原 弘  
教育相談センター長 柴野 武志  
図書館長 安田 穰  
北国博物館長 金田 卓浩  
天文台長 村上 恭彦

傍聴者 0名

議 事 地域における青少年の居場所づくりについて

## 会議録（要旨）

1 開 会 午後2時00分

2 市長挨拶

3 講 演 S S Wから見た学校と地域  
ーこどもの育ちを支える学校と家庭ともう一つの居場所ー

4 議 事

※設置要綱第4条の規定により市長が議長を務める。

(1) 地域における青少年の居場所づくりについて

(議 長)

ただ今の講演を受けてご意見、質問はありませんか。

(委 員)

イメージでは豊かな社会になっていると思込んでいた部分があり、子ども達の現状が、本来であれば安全で安心して居られる場所が家庭や学校だったと思いますが、サードプレイス（家庭、学校・職場以外の居場所）の必要性が切実なものだと感じました。

質問として、

- ・ 引きこもりの子どもへどのように働きかけてサードプレイスへ来られるようになったのか。
- ・ バーチャルユースセンター（子どもや若者のための新しい居場所）を発足され、現時点での反応や経過を教えてください。
- ・ 名寄市には地域資源があり、エッセンスを加えれば活用していけるのではと提案されていましたが、サードプレイスを図書館や博物館などの支援で行っている自治体や具体例があれば教えてください。

(講 師)

相談にきた親を通じてパンフレット等により子どもに伝えてもらっています。支援機関の方や行政の担当者と情報共有するなど、その子に合わせて色々な方法を模索して対応しています。

バーチャルユースセンターは、試行段階で、不登校の対応をしている教育センターや支援機関へ広報をしており、一部の県内の子ども達に段階を踏んで間口を広げている状況です。不登校の子どもを持つ親からの申込みが一番多く、友達や社会との関わりを持つための子どもに合う居場所として登録をしていただく方が多くいます。

(講 師)

図書館や博物館は居場所と考えて建てられたものではないため、それをどのように柔軟に利用していくか、また、児童センターはアクセスが難しい地域もあるので、い

ろいろな所から集まりやすい中心部やショッピングセンターなど、自由に出入りでき、出入りすることが目立たず違和感が無い場所の活用などが考えられます。

また、大学生が地域の人と関わって地域づくりができる場があって、地方から来ている学生が名寄に根ざしてくれれば、社会的な意義として、大学の意義も大きいと感じています。地域的には道北の中では非常に強みが揃っている都市なので、可能性が秘められていると思います。

(委員)

事例にあった施設では、学校で決められている下校時間と食事を取って帰る時間はどのように調整しているのか、また、年々町内会に入る家庭が少なくなり、人との関わりを敬遠する人が増えてきているが、そういった家庭と繋がりを持つための事例があれば教えていただきたい。最後に、現状の環境下で市内のどのような施設で有効的な居場所を作る事が出来るのか教えていただきたい。

(講師)

学校の下校時間については、札幌市では条例で小、中、高校生の時間が決まっているので時間内に帰宅させます。埼玉では、学童保育なので親が迎えにくる時間まで預かり、時間に合わせて食事を取らせています。

(講師)

人と関わりたくないわけではなく、家庭に余力がないことが背景にあるため、そこを下支えしていく必要があります。子育て世代が町内会にどう関わってくるのかは家庭の状況によるので、「いつでもいいよ」と扉を開けてもらえるような空気があったらよいのかと思います。

[議長]

名寄市の居場所づくりはどうしたらよろしいのでしょうか。

(講師)

おしゃれさなどを入り口にする方が、若者は来やすいのかもしれない。建物の内装を工夫して雰囲気を作るだけでイメージも変わり、子どもたちは敏感に察知すると思います。ターゲットの年齢によっても変わってくると思うので、現場で働いている方など皆さんでディスカッションして思いを出しあうだけでも変わるのではないのでしょうか。

[議長]

改めて現場の皆さんともディスカッションを図って進めるのもいいのかもしれない。

(委員)

昔は友達の家集まるなど同世代同士で自由に交流していたが、大人が関わらず若者同士で居場所をつくることはできないのだろうか。

なぜ学校に行きづらくなったのか、この辺を解決していくことが先決なように思います。

[議長]

どのような学校、社会の変化があって今ようになったのか、現代は公共も入って居

場所づくりをしていかなければならないのか。説明いただけますか。

(講 師)

古き良き時代はコミュニティが機能していて、親が働いていても地域の人達の見守りの中で幼児期から安全に育っている中での学校だったと思いますが、そのコミュニティの力が地域社会の中で大きな変化があり、その中で育ってきた親が子育て世代となっていることや、親世代の労働環境の厳しさなどが関わっていると思います。すごく深い問題であると考えさせられます。

(委 員)

社会と遮断して関わっていない人が昔に比べたらずっと増えているように感じています。そういう人達がもし自分の親がいなくなった後、どのようにして暮らしていくか考えたときに恐ろしさを感じます。

(講 師)

悪意を持った大人を見分けることができないので、簡単に悪意を持った大人と繋がり、地域から出ていってしまうことがどこの地域でも起こっている。地域の中に繋がってる人がいることで、地域から出ていくことを防ぐことができます。

[議 長]

教育長のお考えを聞かせてください。

(教育長)

子どもたちの様々な問題に対して、相談センター等が関わっていく中で子どもの声を聞いたときに、子どもの本音が見えないことに悩んでいます。知らないうちに様々な環境の中で子どもが子どもらしく育たない時代になっていると感じています。子どもが伸び伸びする場というのは、学校であったり、家庭であって、そういう場所を用意していかなければならないと思った時に、福祉と教育の連携が大事になってきていると感じています。学校教育、社会教育、福祉部門が連携して、これからの子ども達の教育、子育ての環境を一緒になって考えていかなければならないと思うところです。

[議 長]

街の中に図書館機能を持った第三の居場所的なものを含めた公共施設を作るべきではないかといった議論も出てきているなかで、今回、方向性を議論していく上で重要な示唆をいただいたものと思います。今一度現場での議論も含め必要とされる機能を効果的に集約できるのか、いい形を導いていければと思います。

大変貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

以上を持ちまして閉会とさせていただきます。

5 閉 会 午後 3 時 4 5 分